

製品名: NM23-H1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14751**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	23kDa

抗原情報

遺伝子名	NME1
別名	NME1; NDPKA; NM23; Nucleoside diphosphate kinase A; NDK A; NDP kinase A; Granzyme A-activated DNase; GAAD; Metastasis inhibition factor nm23; Tumor metastatic process-associated protein; nm23-H1
遺伝子 ID	4830.0
SwissProt ID	P15531
免疫原	抗血清はヒト NM23-H1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 3-52

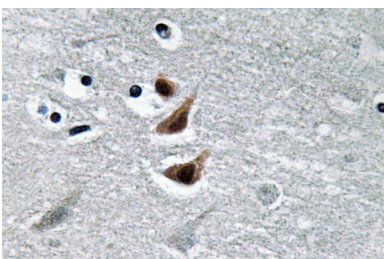
背景

この遺伝子 (NME1) は、転移性の高い細胞において mRNA 転写産物レベルが低下することから同定されました。ヌクレオシド三リン酸キナーゼ (NDK) は、「A」 (この遺伝子によってコードされる) と「B」 (NME2 によってコードされる) のアイソフォームからなるヘキサマーとして存在します。この遺伝子の変異は、悪性度の高い神経芽腫で確認されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが見つかっています。この遺伝子と隣接する下流遺伝子 (NME2) の共転写により、自然発生的な転写産物 (NME1-NME2) が生成され、これは各遺伝子産物と同一性を共有する配列からなる融合タンパク質をコードします。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + ヌクレオシド三リン酸 = ADP + ヌクレオシド二リン酸。補因子: マグネシウム。疾患: このタンパク質は、転移性の高い腫瘍細胞で減少しています。疾患: このタンパク質は、転移性の高い腫瘍細胞で減少しています。神経芽腫では NME1 の体細胞変異が見られます。神経芽腫における NME1 の増加は、悪性腫瘍に関連する疾患の特徴と相関しています。したがって、異なる腫瘍では反対ではないにしても異なる役割を果たしている可能性があります。酵素制御: His-118 の自己リン酸化は、酵素のセリン/スレオニンプロテインキナーゼ活性を高め、SET 複合体との相互作用は、エキソヌクレアーゼ活性を阻害します。機能: ATP 以外のヌクレオシド三リン酸の合成において主要な役割を果たします。AKAP13/LBC と相互作用することにより、Rho 活性を負に制御します。c-Myc 遺伝子の転写活性化因子として作用し、DNA に非特異的に結合する (PubMed:8392752)。機能: ATP 以外のヌクレオシド三リン酸の合成において主要な役割を果たす。ヌクレオシド三リン酸キナーゼ、セリン/スレオニン特異的プロテインキナーゼ、グラニルおよびファルネシルピロリン酸キナーゼ、ヒスチジンプロテインキナーゼ、および 3'-5'エキソヌクレアーゼ活性を有する。細胞増殖、分化、発達、シグナル伝達、G タンパク質共役受容体のエンドサイトーシス、および遺伝子発現に関与する。神経パターン形成や細胞運命決定を含む神経発達に必須である。腫瘍転移抑制能を有する。PTM:N 末端がブロックされている。類似性:NDK ファミリーに属する。細胞内局在:エプスタイン・バーウイルスタンパク質との相互作用、または GzmA による SET 複合体の分解によって誘導される、細胞周期依存性の核局在。細胞内局在:アイソフォーム 2 は主に細胞質内に存在し、アイソフォーム 1 およびアイソフォーム 2 は核小体から排除される。サブユニット:2 つの異なる鎖 A および B のヘキサマー (A6、A5B、A4B2、A3B3、A2B4、AB5、B6)。CAPN8 と相互作用する (類似性による)。AKAP13 と相互作用する。サブユニット:2 つの異なる鎖 A および B のヘキサマー (A6、A5B、A4B2、A3B3、A2B4、AB5、B6)。SET および PRUNE と相互作用する。組織特異性: アイソフォーム 1 は、心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、膵臓、脾臓、胸腺で発現する。肺癌細胞株では発現するが、正常肺組織では発現しない。アイソフォーム 2 は普遍的に発現し、その発現は腫瘍の分化にも関連している。アイソフォーム 3 は普遍的に発現する。組織特異性: 普遍的に発現する。、

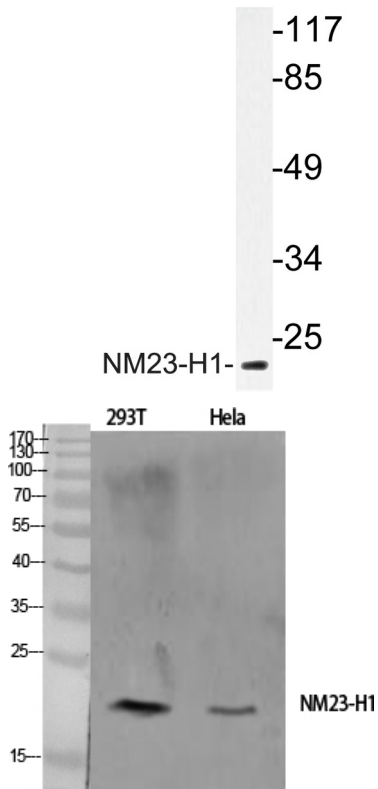
研究分野

プリン代謝;ピリミジン代謝;

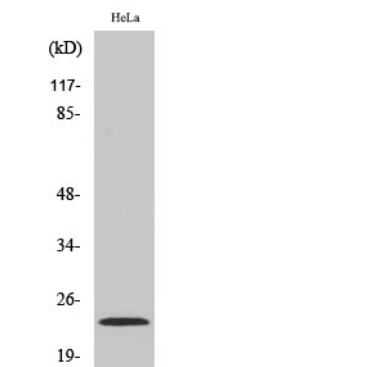
画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における NM23-H1 抗体の免疫組織化学分析。

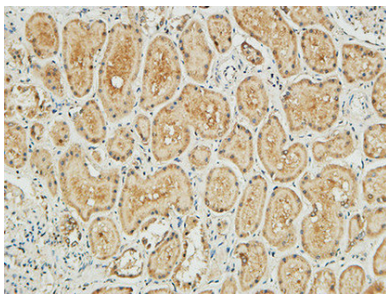


NM23-H1 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。

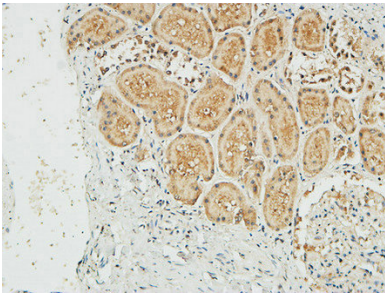


NM23-H1 ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。

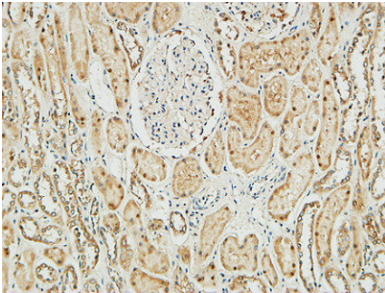
NM23-H1 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。